
プロジェクト報告

脆弱国家における安定への課題： 西アフリカにおける国家と社会の関係の解明

田 中（ 坂 部 ） 有 佳 子

1. プロジェクトの目的

西アフリカ諸国の多くは、2000年代に内戦が終結し治安は落ち着いてきたとみられていた。しかし、近年は国境を越えた組織犯罪、武器流出入、テロリズム、暴力的過激主義等が横行し、国家の安定はままならないとの指摘がある（e.g., Marc, Vergee, and Mogaka 2015）。こうした新たな事案が生じる背景に、選挙プロセス、国家のガバナンス、国家組織の脆弱性と、社会全体が抱える貧困問題、経済不振などが挙げられている。そして、内戦時に暴力に加担した元兵士や民兵らが暴力に関わっているとの指摘がある。先行研究は、元兵士らのDDR（Disarmament, Demobilization and Reintegration：武装解除、動員解除、社会再統合）のプロセスが未完了であることや（Jaye and Pokoo 2010）、社会・コミュニティ側が元兵士らを受容できない問題（Keen 2003；Humphreys and Weinstein 2007）を論じている。ただしこれまでの研究では、そのような諸問題が、なぜ元兵士や民兵たちの暴力化につながるかを説明しきれていない。元兵士や民兵たちの社会再統合は中長期的にしかその成否が解明できないはずである。しかし政策上の関心は短期的に留まるためか、社会再統合の成否とそこから派生する諸問題を体系だてて論じる研究は希少である。

そこで本プロジェクトは、特に再統合のプロセスが失敗したといわれるリベリアを事例として取り上げ、DDRのプロセスの経過と現状の把握を目指した。そのため、戦闘に加わった元兵士とDDRプロセスを知る関係者に対し、半構造化インタビューを実施することとした。

2. プロジェクト実施概要

今回のリベリアにおけるインタビュー調査には現地の社会・文化事情の理解と配慮が必要であるため、ローカルコンサルタントとともに調査票の作成およびインタビュー調査を実施した。詳細は以下のとおり。

インタビュー実施日：2019年10月28日 -11月5日

対象地：リベリア Monteserrado 州 Monrovia 市（8名）、Nimba 州 Ganta 市（14名）、Grand Bassa 州 Buchanan 市（8名）

インタビュー対象者は、DDR プロセスを知るシビリアン（政治家、公職者、知識人）が5名、内戦中に戦闘行為に加わった者が25名（男性23名、女性2名）である。後者のグループについて内戦中のステータスは司令官が5名、中堅司令官（mid-level/local commanders）が8名、戦闘員が12名であった。

インタビュー対象者の DDR プロセスに関わる経験の概要は以下のとおりである。戦闘に加わった者の殆どが武装解除のプロセスを経たと認識していた。しかしその後の再統合の部分について、短期の就業訓練プログラムへの参加経験の有無がわかれた。元司令官は政治家、政府高官、経営者に転じていた。公職者となった元司令官は、内戦で共に戦い繋がり深い中堅司令官や元兵士を部下に採用している。ビジネス経営の場合は、農業プランテーション（コメ、ゴム、ナッツ類など）やバイクタクシー事業を展開していた。これらの事業を営む元司令官は、元兵士のほか多数の「若者」に従事者として雇用していると話す。

また彼らによれば、戦闘経験者の間には一定のネットワークが維持されている。特に中堅司令官と元兵士の繋がりには密で、容易に動員が可能な状態にある。またリベリアにおいて「若者」（At-Risk Youth, Affected Youth）とは、2度にわたる内戦を通じて教育を受けられず、経済不況が相まって失業に悩まされる青年たち（15-35歳程度）を指す。こうした内戦により負の影響を受けた「若者」が社会的不安定をもたしうとの認識が広がっている¹⁾。

DDR プロセスを知る政治家、知識人らは、元兵士らが一般犯罪（窃盗）や麻薬の使用、レイプに関与している、と認識する。また彼らによれば、元兵士らの社会再統合の過程

1) Director of Peacebuilding Office (PBO), Ministry of Internal Affairs や National General Secretary of Young Women's Christian Association (YWCA) に対する浅野墨氏によるインタビュー調査（2019年9月20日-25日）においても確認した。

ではコミュニティが元兵士を受容しない事例が多数みられたという。

3. 今後の展望

インタビュー調査では、リベリア元兵士らの社会における立ち位置が明らかとなった。今後はインタビュー内容をテキスト化して分析を精緻化し、論文を執筆する。

リベリアの全人口4.97百万人（2019）のうち、15歳以上の労働力人口は第2次内戦が終結した2005年当時から1.7倍の2.2百万人となった（World Bank 2020）。リベリアの社会事情については、元兵士に加え若者を分析対象とすることが有用であると思われる。低度でありながらも暴力行為の多発は西アフリカ諸国で共通の不安事案である。リベリアの事例を精査することにより、同地域の安定への対処にも示唆を得られるであろう。

参考文献

- Jaye, Thomas and John Mark Pokoo. 2016. "The DDRR and SSR Process in Liberia: Prospects and Challenges." *Crafting an African Security Architecture: Addressing Regional Peace and Conflict in the 21st Century (The International Political Economy of New Regionalisms Series)*. Edited by Hany Besada, 169-184. Crafting an African Security Architecture Routledge.
- Humphreys, Macartan and Jeremy M. Weinstein. 2007. "Demobilization and Reintegration." *Journal of Conflict Resolution*, 51 (4), 531-67.
- Keen, David. 2003. "Greedy Networks in a Failing State: The Roots and Future of Violent Conflict in Sierra Leone." *International Politics and Society*, 2(2003), 44-66.
- Marc, Alexandre, Neelam Verjee, and Stephen Mogaka. 2015. *The Challenge of Stability and Security in West Africa*. Agence Française de Développement and International Bank for Reconstruction and Development.
- World Bank. 2020. "Liberia." data.worldbank.org (Retrieved August 31, 2020)